令和 6 年度

事業所名 : グループホーム おからぎ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300043		
法人名	社会福祉法人つつ星会		
事業所名	グループホーム おからぎ		
所在地	〒028-6105 岩手県二戸市堀野字大川原毛89-12		
自己評価作成日	令和6年11月17日	評価結果市町村受理日	令和7年4月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅と同様に生活の場としてゆったりとした雰囲気の中で、自分らしい生活リズムに沿った過ごし方ができること。生活の中に自分なりの日課や役割を持って頂くことで、生活にメリハリを持たせ何気ない日常の幸せな日々を、季節を感じながら豊かで穏やかに送れるように支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県立二戸病院に隣接し、法人も事業所の周辺でデイサービス、特別養護老人ホーム等の複数の介護事業を展開している。また、消防署、社会福祉協議会、高等看護学院も近く、関係機関の協力が得やすい環境にある。近所には、スーパー、商店もあり食材購入や買い物にも利便性が高い地域である。「パーソン・センタード・ケア(PCC)」を目指し、「最善の福祉サービスの実現」という法人理念の実現に向けたケアを実践している。コロナが5類へ以降した後は、家族の面会や外出などを再開しながら、入居時に家族が記入した「24時間シート」や日常のケアを通じて一人一人の思いや要望の把握に努めている。入浴時には職員のアイデアで季節ごとに湯船に花や果物、野菜などを浮かべるなど、入居者の満足度向上に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和7年2月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員の研修時や、毎年法人内で理事長による理念の研修を行っている。当事業所では、玄関とホール内に理念を掲示している。又、理念に共通点が見られる、パーソン・センタード・ケアを基に職員の意識継続、向上に努めている。	法人の経営理念、経営方針をグループホームの理念とし、個々の利用者にとって最善のサービスの実現、「パーソン・センタード・ケア」を目指したサービスの提供を行っている。理念は事業所内に掲示して共有され、この理念に基づき、職員は利用者に対して穏やかな声がけ等を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材の主な購入先を、歩いて行ける近隣のスーパーに変更した。乳製品の配達や、出前、ケーキの注文は、市内の業者さんに継続してお願いしている。	町内会に加入しているが、事業所周辺に民家が少ないこともあり地域住民との交流の機会は少ない。一方、スーパーは利用者と一緒に買い物に行ける距離にあり、近所の散歩も可能である。県立病院に隣接しており、看護学校生の見学の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの待機者がいる状態、申込者に対して、自施設以外の地域サービス等の相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の取り組み状況についての報告や、意見交換は行えているが、運営推進会議を活かした取り組みまでは至らなかった。	コロナが5類へ移行した後、参集での開催を再開し、ヒヤリハット事例の共有等を行っている。利用者・家族の協力は得られておらず、地区の民生委員が欠員となっていることから、メンバーは町内会長、広域行政事務組合介護保険推進室、二戸市福祉事務所の職員にとどまっている。	事業所内のボランティア受け入れや、事業所外の見守り体制(SOSネットワーク)、災害時の対応等に課題があるため、社会福祉協議会や法人本部、地域の消防団等を運営推進会議のメンバーに加えて、更なるサービス向上に努めることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域行政事務組合や、市の社会福祉協議会や地域包括支援センターに連絡を取り、在宅状況やGHの待機者の現状を共有し、入居等の協力をお願いしている。市の防災ラジオを使用している。	市の福祉課からは予防接種等についての情報提供、社会福祉協議会のケアマネからは新規利用者の入居相談等がある。広域行政事務組合とは必要に応じて連携している。地域ケア会議には法人として参加している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会や、定期的に身体拘束適正化委員会を開き、身体拘束についての意識を継続できるようにしている。身体拘束を行わない第1歩として、スピーチロックを念頭に置き利用者との良好な関係と周辺症状の軽減に努めている。	身体拘束に関する内部研修を年2回実施し、身体拘束適正化委員会は毎月の職員会議に引続き3か月ごとに開催している。現在、身体拘束の要件に該当する利用者はない。居室のセンサーは家族の了承を得て1名が設置している。玄関の施錠は夜勤職員が1名となる夜8時から朝6時頃までの時間帯のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で、研修を実施している。各職員が虐待防止の意識を持って業務を遂行している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、独居生活が増えると思われ、知識として学習する必要がある。事業所内で研修を実施している。現在は事業所事体には、制度対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設見学をしていただいている。概要説明等についても十分な時間を取り、納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の家族の希望や、普段の利用者との何気ない会話から、食事等の希望を取り入れている。家族と連絡を取った時は、情報を共有しやすいように、記録用紙に印を付けている。日頃の様子を伝え、希望を確認している。	家族の面会は事前に連絡があればいつでも受け入れている。面会場所は玄関ホール、居室いずれでも可能である。利用者の状況は居室担当に限らず職員が誰でも家族に伝えられるよう情報共有を行っており、利用者・家族からの要望があれば、ケアに反映するよう努めている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートや人事考課等の個人面談で意見を聞き、人事や運営の参考に行っている。急を要する時は随時意見を聞き、他スタッフに周知し、様子を見ている。	職員アンケートを年1回実施し、職員一人一人の状況把握や異動の希望等を確認している。また、管理者が作成した「自己ケアの振り返り」シートのやり取りを通じて、職員個々の課題の把握や職員のケアの質の向上に努めている。人事考課は法人で実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートや面談を行い、意向を確認している。人事考課を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームケアに必要な、認知症や虐待等の項目に対しての勉強会を開催している。外部研修には一回参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着サービス協会に加盟している。必要時には、地域内のグループホームに電話連絡をし、相談に乗ってもらっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定時から各情報を収集し、アセスメントを行い支援に繋げている。特に言葉使いに注意し、傾聴の姿勢を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を聞き、安心してサービス利用を開始できるように支援している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時に、既往歴等から本人の状態をアセスメントし、サービスの検討を行っている。ケースにより各関係機関と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向を尊重した支援を心がけている。本人の出来る事を探したり、行ったりして暮らしを共有できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が通院対応で来所の際には、近況を伝え支援を連携できるようにしている。報告や相談を行い、繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会も特に大きな制限もなくなり、マスク着用で来所者の方と面会を行えている。又、週に1度夫と家に帰って過ごしている方もいる。	入居時に家族が記入する「24時間シート」により、利用者の馴染みの人間関係を把握している。過去の知人から手紙が来る方や、隣接するデイサービスに通っている妻や友人が面会に来る方もある。堀野まつりやスーパーの盆踊りに参加することで、地域との関わりを持てるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の能力を把握しながら、出来る事は皆と一緒に出来るようにしている。利用者同士の支え合いを大切にし、なるべく周囲との関りを持てるようにしている。孤立しがちな方には、得意な事を行っていけるように職員が関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行えていない。今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の入れ替わりもあり、会話の中から希望や意向を聞き取ることの出来る利用者も増えている。小さな気付きを大切にしている。	利用者全員と言葉でコミュニケーションが取れるため、日常生活(食事の内容、歌の歌詞など)の中から話題を広げ、会話を通して本人の意向を把握するよう努めている。過去に出来ていたこと、好きなこと、嫌いなことを確認することにより、事業所の中で利用者がいかに楽しく心安らかに暮らせるかを工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に生活等を伺ったり、前担当ケアマネジャーから情報を収集している。その人の生活歴を参考に、必要に応じてケアプランを見直し、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動を観察しながら、記録をもとに職員間で共有し、経過の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を大切にしながら、生活状況をアセスメントしている。担当スタッフは、ケアプラン評価表を記入し、毎月の業務会議で報告しケアプラン作成の参考にしている。	新規利用者は3ヵ月、以降は担当者が6ヵ月に1回モニタリングを行っている。アセスメントにあたっては、家族が作成した「24時間シート」と病院などからの情報提供に基づき、利用者の状況や生活歴を総合的に把握するよう努めている。職員会議ではケアプランの下地となる話し合いが行われ、ケアマネと担当者の話し合いによりケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個別のチャートに24時間の流れで記入している。申し送りノートで支援内容を共有している。又、ヒヤリハット用紙を併せて活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意向に沿った関りが出来るように、必要に応じた企画、支援を行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通院時に必要な時は、地元の介護タクシーを利用している。外出時に、家族と馴染みの美容院に、出かける利用者もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医との関係を維持し、医療を受けられるように支援している。状態に応じた内容を報告し、指示をもらっている。家族の希望がある場合は、近くの県立二戸病院に変更している。	全員が入居前からのかかりつけ医や隣接する県立二戸病院を受診しており、通院には家族が同行している。本人の状況の変化等、主治医への相談や伝えたい事項は職員がメモを作成し、家族が主治医に説明できるよう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の通所介護施設の看護師に、利用者の既往歴や内服薬、主治医等を伝え情報を共有している。急変時には、指示を仰ぐことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	隣接する県立二戸病院と協力関係にある。入退院時にはカンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っていないが、重度化に向けた指針を作成している。入居時に、指針や状態変化の意向確認書を、本人や家族に説明している。事業所の勉強会で、終末期やターミナルケアの研修を取り入れている。	看護師の配置や特殊浴槽の設置がないこともあり、「重度化に向けた指針」に基づき、利用者が要介護3以上になった段階で特別養護老人ホーム等への申込を案内している。看取りの対応ができないことについては、入居時に家族へ説明をしつつも、年1回は終末期ケアの研修を行っている。	

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各種急変時(発熱、嘔吐、痙攣、転倒、吐血、骨折、意識障害)のマニュアルを作成している。隣接する通所介護施設の看護師に随時、相談、指導を依頼できる体制にある。定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の昼夜を想定した、避難訓練を行っている。夜間訓練想定では、消防署のアドバイスを取り入れた訓練を継続している。食材、反射式ストーブ、発電機、災害時備品等を備蓄している。水害等の自然災害には地域に民家が少なく、協力体制を築けていない。	基本的には災害のリスクが高い地域ではなく、消防署から出動5分の距離にある。避難訓練は隣接するデイサービスと合同で年2回実施。うち1回は夜間想定訓練を昼間に実施している。玄関と台所口に屋外スロープがあるが、全員が玄関口に避難して待機することを消防署と申し合わせている。避難誘導にあたっては特に夜間の体制が課題である。	災害対策に関して近隣の協力が難しいことが想定されるため、特に夜勤職員が1名となる夜間の対応が課題です。近距離に法人の事業所が点在することを生かし、法人内部の非常時の協力体制を整理し明確化していくことを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内で個人情報、プライバシーの研修を実施している。個人の姿勢を大切に、尊厳を傷つけないようにし、パーソン・センタード・ケアに基づき、各自に合った声掛けに努めている。	プライバシー及び個人情報保護に関する研修を年1回実施している。記録の保管は介護職員室のロッカーとしている。利用者一人一人の人格を尊重し、否定せず、心穏やかにケアにあたるよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを達成できるように、話しやすい環境や雰囲気作りに努めている。又、自己決定ができるように、選択肢を増やすように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、利用者がしたいように寄り添いながら支援している。現在は食器拭きや洗濯たたみ、掃き掃除、モップがけ、新聞整理等の役割を持っていただき、個々のペースに合わせている。数名の利用者は、スタッフと一緒にリネン交換を行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、理髪店の訪問散髪を依頼している。数名の利用者は、自分でブラッシングを行っている。外出時には、衣類のアドバイスをすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の移り変わりや日々の会話の中で、利用者の嗜好を把握し、季節を感じられるメニューを取り入れている。一部の食器洗いや食器拭きは、利用者中心に行っている。可能な時は、盛り付けを手伝ってもらう事もある。	メニューは調理師免許のある職員が作成し、三食すべて職員が手作りし、利用者が好きな「せんべい汁」は毎週取り入れている。スーパーへの買い物、食器洗いや食器拭き、おしぼり巻き等は利用者が職員と一緒にしている。大晦日や正月の行事食、ホットケーキやへっちょこ団子等のおやつ作り、お花見やドライブ等、様々な形で食を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を把握しながら、排泄状況や体重管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持の為、食後の声掛けやケアを行っている。就寝前の口腔ケアを入念に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には布パンツ、リハビリパンツとパットを使用している。トイレで排泄する事を意識して、本人の排泄パターンに応じたタイミングで、声掛けや介助を行っている。	布パンツ使用は1名、リハビリパンツ使用は8名で、ポータブルトイレ使用者はない。排泄チェック表で利用者の状況を確認し、必要に応じてトイレ誘導を行っている。夜間は、プライバシーに配慮しつつ、けがや急変がないように1時間に1回夜勤者が見回りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量、水分摂取量、活動性を意識した支援を行っている。ヨーグルト等の乳製品や寒天ゼリーを提供している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回、13:30~16:00頃に入浴している。月ごとに季節に応じた花や、植物を浴槽に入れて入浴を楽しんでいる。入浴時の一人対一人の会話も大切にしている。又、拒否が強い時は、無理強いのないように対応している。	月曜日から土曜日まで、毎日午後を入浴の時間としており、1日3名ずつ、1人あたり週2回入浴できるように調整している。浴槽に野菜や花、ひのきチップやしょうが等を入れて、利用者がゆったりと入浴を楽しめるように工夫をしている。拒否が強い場合には本人の意向を尊重している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	余暇時間は、本人の生活リズムや体調に応じて、居室やホール内のソファ席で休んでいただくようにしている。夜間は、本人の就寝時間に合わせるようにしている。ホールや居室の空調を調整し、入眠しやすい環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を管理しながら、日々の状態観察と支援の注意点に留意しながらケアを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好み、やりたい事等を尊重し、アクティビティ物品を提供している。音楽やテレビを楽しんだり、食器洗い、食器拭き、洗濯たたみ、おしぼり巻き等の家事活動を分担している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暑い日が続く、夏場の外出は難しかったが、天候に応じて散歩や、外気浴に努めた。季節を楽しむドライブに出かけた。通院時には、家族や親戚の方と食事を済ませてくる利用者もいる。	春から秋は外気浴や、二戸病院周辺の遊歩道の散歩等を取り入れ気分転換を図っている。北側非常口のスロープに椅子を置いて日光浴を楽しむこともできる。また、職員と一緒にドライブに出かけたり、家族と一緒に通院することが、利用者にとって外出の機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、事務所で管理している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分な広さを取り、思い出の音楽や好みの映像を流し、ゆったりと過ごせるようにしている。時には、窓越しに見える季節の移り変わりや、風景に会話を広げている。テレビの音、調理の匂いや音、室内の洗濯物も生活の一部と捉えている。	食堂、ホールを囲む形で居室とトイレ3カ所が配置されており、日中は天窓からの明かりが差し込んでいる。3台の食卓に利用者が3人ずつ座ることができ、テレビの前にはソファが配置されている。ほとんどの利用者が日中は共用空間で過ごし、壁面には利用者が作成した作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にあるテレビ前のソファ席と、食堂のテーブル席で気の合った利用者が、それぞれの場所で過ごしている。気候がよければテラスに椅子を置き、外気浴を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していた衣装ケースや植物、置物、造花等を置いている。仏壇や位牌、故人の写真を置いている方もいる。テレビを持ち込んでいる利用者もいるが、居室で見る事はなくホールで他の利用者と一緒に見ている。	居室にはベッド、エアコン、洗面台、加湿器、空気清浄機、クローゼットが備え付けられている。利用者がそれぞれ使い慣れたものを持ち込んでチェストやテレビを配置し、仏壇、位牌、家族の写真等を飾っており、自分らしく居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はバリアフリーになっており、移動に支障がないようにしている。トイレは3カ所に設置しており、安心できる環境にある。トイレを使用していない時はドアを半分程開け、使用していない事が分かるようにしている。		